

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 2 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2004-536707 (P2004-536707A)  
 【公表日】平成 16 年 12 月 9 日 (2004.12.9)  
 【年通号数】公開・登録公報 2004-048  
 【出願番号】特願 2003-516703 (P2003-516703)  
 【国際特許分類】

**B 0 5 D 7/14 (2006.01)**  
**B 0 5 D 1/36 (2006.01)**  
**B 0 5 D 3/00 (2006.01)**  
**C 0 9 D 4/00 (2006.01)**  
**C 0 9 D 7/12 (2006.01)**

【F I】

B 0 5 D 7/14 L  
 B 0 5 D 1/36 Z  
 B 0 5 D 3/00 D  
 C 0 9 D 4/00  
 C 0 9 D 7/12

【手続補正書】  
 【提出日】平成 17 年 6 月 23 日 (2005.6.23)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

コーティング層の作製方法であって、

(a) 樹脂固形分がオレフィン二重結合のラジカル重合によって硬化可能なバインダー系を含むコーティング剤であって、光安定剤として、3, 3, 5, 5 - 多置換によって立体的に妨害されるモルホリン - 2 - オン誘導体を、樹脂固形分を基準として 0.1 ~ 4 重量 % 含むコーティング剤から基材上にコーティング層を適用する工程と、

(b) 適用されたコーティング層を熱硬化する工程とを含むことを特徴とする方法。

【請求項 2】  
 請求項 1 に記載の方法で作製されたコーティング層でコーティングされた基材。

【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0063  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0063】

残留光沢 (%) を測定した (初期光沢の多層コーティングを引掻いた後の光沢に対する割合で、それぞれ照明の角度を 20° で光沢測定した)。アムテックキスラー社 (Amtec Kistler) の実験室規模の洗車装置で引掻きをつけた (参考：非特許文献 1)。

以下に、本発明の好ましい態様を示す。

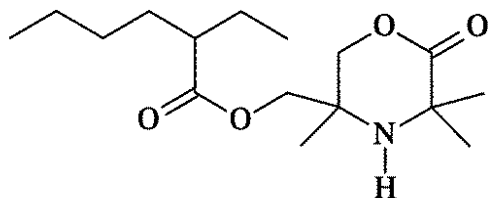
1. コーティング層の作製方法であって、

(a) 樹脂固形分がオレフィン二重結合のラジカル重合によって硬化可能なバインダー系を含むコーティング剤であって、光安定剤として、3, 3, 5, 5 - 多置換によって立体的に妨害されるモルホリン - 2 - オン誘導体を、樹脂固形分を基準として 0.1 ~ 4 重量 % 含むコーティング剤から基材上にコーティング層を適用する工程と、

(b) 適用されたコーティング層を熱硬化する工程とを含むことを特徴とする方法。

2. 前記モルホリン - 2 - オン誘導体が

【化 1】



であることを特徴とする 1. に記載の方法。

3. 前記コーティング剤が、熱活性可能なラジカル開始剤を含有することを特徴とする 1. または 2. に記載の方法。

4. 前記コーティング剤が、水性コーティング剤、溶剤系コーティング剤、無溶剤系液状コーティング剤、水を含まない液状コーティング剤および粉体コーティング剤からなる群から選択されることを特徴とする 1. ~ 3. のいずれか一項に記載の方法。

5. 前記コーティング層が、単一層のコーティングとして適用されることを特徴とする 1. ~ 4. のいずれか一項に記載の方法。

6. 前記コーティング層が、プライマー、プライマーサーフェーサー、ベースコート、透明コート、単一層のトップコートおよび封止層からなる群から選択される多層コーティングのうち少なくとも 1 つのコーティング層として適用されることを特徴とする 1. ~ 5. のいずれか一項に記載の方法。

7. 前記コーティング層が、着色ベースコート層上に、外面透明コート層として透明コート用コーティング剤から適用されることを特徴とする 6. に記載の方法。

8. 前記コーティング層が、透明コート層とトップコート層とからなる群から選択されるコーティング層上に、封止層として透明な封止コーティング剤から適用されることを特徴とする 6. に記載の方法。

9. 前記コーティング層が、プレコートされた基材上に、外面着色トップコート層としてトップコート用コーティング剤から適用されることを特徴とする 6. に記載の方法。

10. 前記基材が、自動車の車体および車体の部品からなる群から選択される基材であることを特徴とする 1. ~ 9. のいずれか一項に記載の方法。

11. 熱硬化は、赤外線照射および対流加熱からなる群から選択される少なくとも 1 種の加熱方法によって行われることを特徴とする 1. ~ 10. のいずれか一項に記載の方法。

12. 1. ~ 11. のいずれか一項に記載の方法で作製されたコーティング層でコーティングされた基材。